

# 住友林業(株)における マイグレーションによる COBOL資産の活用

2007年7月19日

住友林業情報システム株式会社

## 目次

- 会社紹介
- マイグレーションの背景と目的
- マイグレーションの規模
- マイグレーション実行イメージ
- 概要スケジュール
- 留意点
- マイグレーションの効果
- まとめ

## 住友林業株式会社

社名	住友林業株式会社	
所在地	東京都千代田区丸の内一丁目8番1号(丸の内トラストタワーN館)	
設立	昭和23年2月20日	
資本金	27,672百万円	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山林事業 ⇒ サステナブルな循環を構築</li> <li>■ 木材・建材事業 ⇒ 世界中から良質な木材・建材を供給</li> <li>■ 新築住宅事業 ⇒ お客様満足を最優先に考えた家づくり</li> <li>■ 住宅ストック事業 ⇒ 暮らしやすさを彩る</li> <li>■ 緑化事業 ⇒ 緑ある住まいと暮らしをご提案</li> <li>■ 生活関連事業 ⇒ 暮らしに密着した多彩なサービス</li> <li>■ 海外事業 ⇒ 持続可能な発展を目指して、世界へ</li> </ul>	
拠点数	支店・営業所 124拠点 展示場310拠点	
関係会社	36社	

©copyright All Right Reserved

住友林業情報システム株式会社

## 住友林業情報システム株式会社

社名	住友林業情報システム株式会社	
所在地	千葉県美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンB棟7階	
設立	平成3年11月1日	
資本金	1億円	
従業員	100名 (2007年6月現在)	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システムのコンサルティング</li> <li>・システムインテグレーションサービス</li> <li>・ネットワークソリューションサービス</li> <li>・ネットワーク運用サービス</li> <li>・ヘルプデスク、IT教育</li> </ul>	
主要販売先	住友林業/住友林業グループ各社/住友林業取引工務店 他	
主要協力会社	日本電気/NECネクサソリューションズ/東芝ソリューション/ スターネット/日立製作所/富士ゼロックス/システム開発センター/日本システムウェア/日本ヒューレットパッカード/アイネット/オージス総研他(順不同)	

©copyright All Right Reserved

住友林業情報システム株式会社

# マイグレーションの背景と目的

## レガシーシステムの限界

汎用機では、ユーザーニーズを満たすシステム構築は困難だが、再構築には時間がかかる。

## ハードウェアの限界

ハードウェアの保守期限が迫り、システムの安定稼動に支障をきたす恐れがある。

オープン系でのシステムの再構築は必須。  
しかし、早期に移行する必要がある。

マイグレーションにより保守期限切れを回避し、将来のシステム再構築に備えるインフラの整備を行う。

# マイグレーションの規模

## アプリケーションプログラム

978本 → オンライン 245本 436Kステップ  
バッチ 513本 356Kステップ

## JCL

950本 → 497本 45Kステップ

## 画面

327画面 → 191画面

## データベース

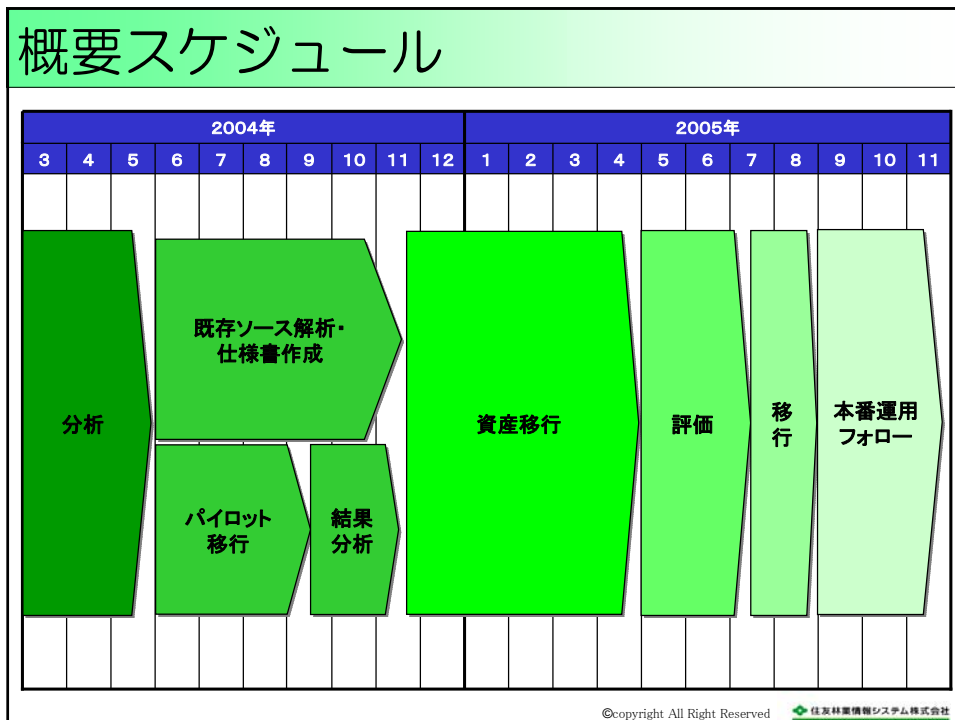
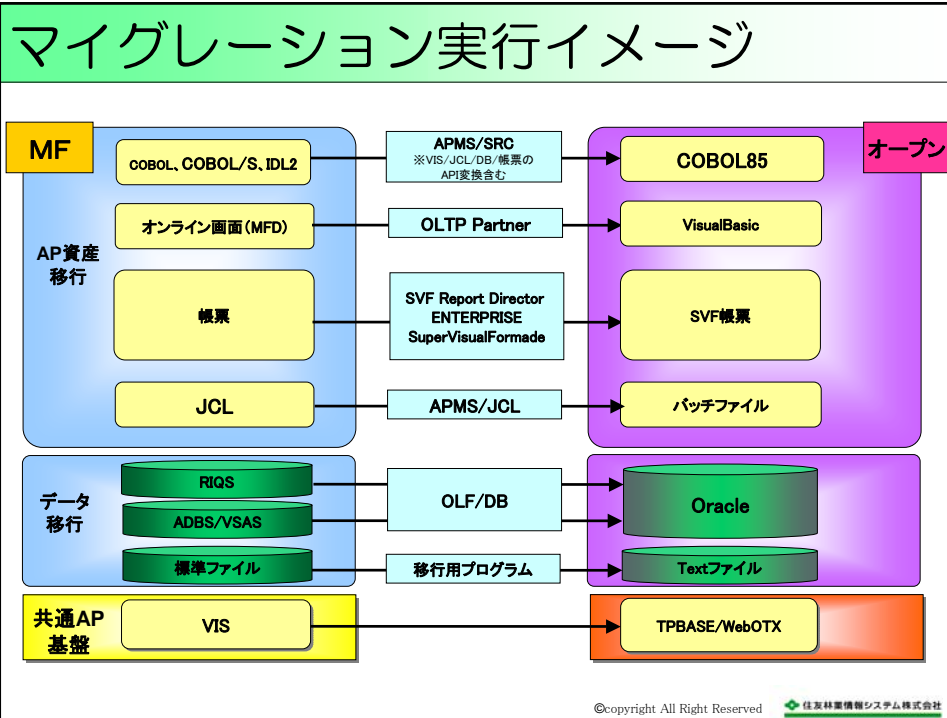
ADBS 110  
RIQS 24  
VSAS 129

## 帳票

サブシステム 80表  
基幹系端末 50表  
センター系 50表

## 対象システム

- 営業基幹系システム(全社実績管理系システム)
- 直輸入原木「在庫・販売」管理システム
- 直輸入製品「在庫・販売」管理システム
- 直輸入輸入合板「在庫・販売」管理システム
- 国内商品仕入販売管理システム



## 留意点—移行資産整理時—

### ■移行資産洗出し

- ・スケジュール及びコスト低減の為、移行対象を精査する。
- ・ソースだけではなく、コピー句や部品等も精査が必要。

### ■管理ルール

- ・長年に渡り改変を繰り返してきた為、管理ルールを逸脱した資産が漏れの原因となる。  
ex)ソースの名称ルール、格納ライブラリ、ソースとLMのリビジョン違い



**洗出しで漏れた資産は、手戻りとなりスケジュールを圧迫する。  
移行資産の整理は慎重に。**

## 留意点—移行設計時—

### ■ユーザーインターフェース

- ・画面やキー操作などは、早期にパイロットコンバージョンを実施し確認する。
- ・エントリ系画面は実操作を行う。(可能であれば実担当者。)

### ■自動コンバージョン

- ・コンバージョンツールは万能ではない為、変換できない命令や特殊な言語はすべてC言語などで新規に作成する必要がある。



**自動変換の可否がある程度見えてくるので、変換率の低下による影響の精査を行う。(スケジュール・コストへの影響)**

当社の場合、当初想定変換率92%⇒88%へ。  
手修正規模が30,000Line増加。(RIGSのCALL型やHPLは自動変換不可)

## 留意点ーソースコンバート～単体テストー

### ■ 汎用機とサーバーの機能差

- ・自動変換される部分のビジネスロジックは問題ないと考えていたが、四捨五入の考え方が異なるなど汎用機とサーバーの機能差がある。
- ・EBCDICとSJISで文字コードが異なり、アルファベットと数字が混在するSORTで汎用機と結果が異なる。⇒ SORTオプションにて回避。

### ■ データベースアクセス

- ・自動変換は、効率が悪くレスポンスに影響する為、Select条件を精査する必要がある。



**マイグレーションとはいえテスト作業の簡略化は不可。  
レスポンスにも留意した評価が必要。**

## 留意点ー総合テスト時ー

### ■ テスト規模

- ・全システムの一括入れ替えの為、テスト規模が大きい。
- ・比較対照があるので評価そのものは容易。

### ■ テストシナリオ

- ・汎用機システムの担当者は少数の為、汎用機のシステムを知らないメンバーも総合テストへ投入する必要がある。
- ・誰でもテストができるテストシナリオが必要。



**汎用機システム担当がテストシナリオ作成に専念。  
他のメンバーがテスト実施。**

## マイグレーションの効果

### バッチ処理の高速化

日次処理 8時間 → 3時間

### DBのOracle化

データベースの直接更新が可能に！

### 技術者スキルの平準化

汎用機担当、オープン系担当双方の技術習得が促進された。

### モジュールの自動配布

クライアントへの配布の手間をなくした。

©copyright All Right Reserved

住友林業情報システム株式会社

## まとめ

今回のマイグレーションは、これからのシステム再構築の為の基盤作り。

オンライン系は、VBなどのオープン系言語で再構築し利便性を高める。  
バッチ系は、現状のままCOBOLで維持して行く。

マイグレーションによりCOBOL資産をオープン系に移行することで、COBOLソースに記述されたノウハウが継承されることに価値がある。

©copyright All Right Reserved

住友林業情報システム株式会社

ご清聴  
ありがとうございました。

2007年7月19日  
住友林業情報システム株式会社